

2月



出典：筑後川の菜の花

<http://sozai-photo.com/nanohana/nanohana.html>

## あの日のあの川 リレー日記 ～第25話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第25話主人公 藤原誠士

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：福岡県筑後川)

### 「名曲に触れて」

いつのこと？：幼少期～これから

どこの川？：筑後川，桂川（筑後川支流），堀川（用水路）

「筑後平野の百万の生活の幸を祈りながら川は下る」この言葉にピンとくる方がもしかしたらいるのではないのでしょうか。これは丸山豊さん作詞，團伊玖磨さん作曲の合唱組曲「筑後川－河口－」の一節です。僕は音楽に詳しいわけではありませんが、「河口」の曲の始まりを聴くと自然と鳥肌が立ってしまい，團伊玖磨さんが素晴らしい作曲家だということを素人ながら実感しています。合唱組曲「筑後川」は，九州一の大河筑後川が阿蘇のふもとに生まれ，筑後平野を横断し，有明海へと流れていく姿を，あるときは清らかに，またあるときは激しく，壮大に表現した名曲です（本稿の最後に歌詞を載せています）。小さな水の流れが紆余曲折を経て大河と成る筑後川を，人の人生にもなぞらえておおらかに歌い上げられたこの曲は，1968年に作曲者團伊玖磨さん自身の指揮で初演され，50年近く経った現在でも歌い継がれています。特に第5楽章「河口」は，全国の多くの小中学校の卒業式で，門出を祝うにふさわしい曲として歌われているそうです。

恥ずかしいことに，僕は筑後川流域に生まれ育っておきながら大学卒業間近まで，多くの人に愛されているこの曲を知りませんでした。初めて聴いたのは研究室の先輩で川系男子の坂本貴啓さんに，本稿を地元の筑後川について書くと話した時のことで，この曲の清らかさ，雄大さ，そして願いに強く引き付けられました。聴

けば聴くほどこの曲の持つ深い意味合いを感じ、おそらく僕がこの曲について大方理解できるようになるのは、この先様々な出来事を経験したのちのことだろうと想像しています。

小さい頃はよく兄弟と川で遊んでいました。家の近くを流れる桂川（筑後川支流）でカニやザリガニを見つけたり、小学校高学年になると堰や堤、用水路（堀川）で泳いだり飛び込んだりしていました。それが学校の先生に伝わり、反省文を書かされてもこっそり遊んでいたのを覚えています。今考えると随分危険なことをしていたなと思います。そうやって何も考えずに日々を過ごしていたころと比べると、今は時間に追われ、楽しいことも減っている気がします。



堀川用水  
出典：ふるりの蒸気機関車

また、私事ですが、僕は将来の人生設計について考えた結果、大きく進路を転換し、これまで歩んできた自分が通るであろう道とは違う道へ挑戦しようとしています。そのため、これまでその道をまっすぐ歩んできた人たちの中で自分がやっていけるか、ということに大きな不安を感じています。このような状況で楽曲「筑後川」と出会い、その音色と歌詞に勇気づけられた部分も多いです。

現在の僕は第1楽章「みなかみ」の一節のように、未知の世界へ旅行しようとしています。その先には第2楽章「ダムにて」で歌われているように、困難に直面することもあるでしょう。しかし、もがき苦しんで活路を見出せば、人の役に立てる仕事をすることの喜びを知ることができるかもしれません。第3楽章「銀の魚」のように日常の美しさに気付くときや、第4楽章「川の祭」のように、それが何にしても思いっきり楽しむときを迎えたいと強く思います。そして第5楽章「河口」のように、様々な経験を

積んだ上で人の幸せを心から祈れるおらかな人間になりたいと思います。

丸山豊さんの作詩によって、小さい川が大河となる様を人生になぞらえ表現した「筑後川」は、團伊玖磨さんの作曲によって、「河口」の壮大なエンディングで新しい世界に旅立っていく様を表現した曲になったそうです（詳しくは亀岡弘志さん記、「リリオだより雑学シリーズ 85」をご拝読ください）。故郷でこのような名曲が生まれたことを誇りに思います。

合唱組曲「筑後川」、聴いたことがないという方は是非一度聞いてみてはいかがでしょうか。

【混声合唱曲：筑後川】



[https://www.youtube.com/watch?v=ny6YqykCMzc&list=PL79bkzMhJIfKwB0vwKdr8iJslDdWT\\_OJD](https://www.youtube.com/watch?v=ny6YqykCMzc&list=PL79bkzMhJIfKwB0vwKdr8iJslDdWT_OJD)

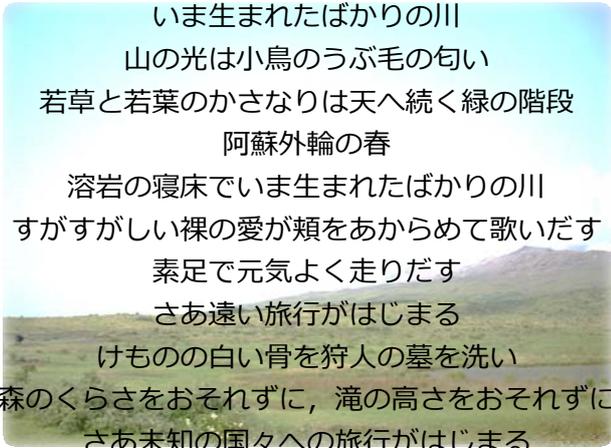


山田堰  
撮影者：坂本貴啓

(次は坂本貴啓さんにバトンを託します)

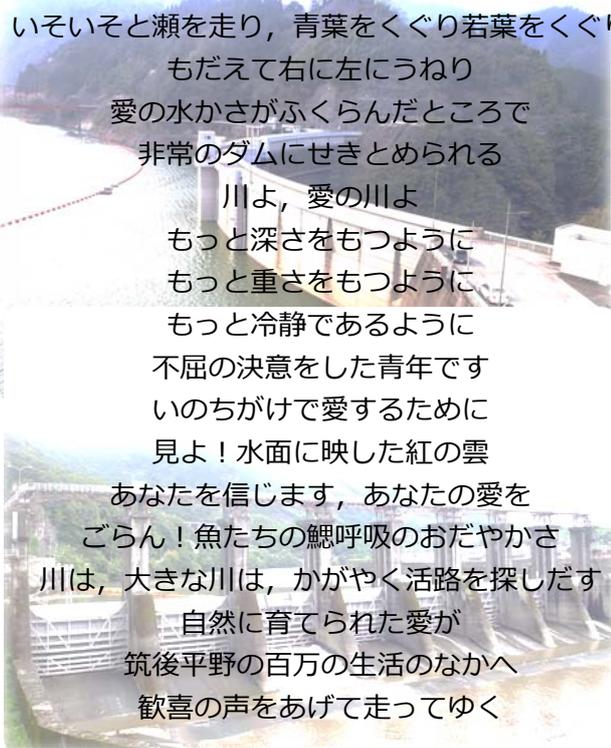
合唱組曲「筑後川」 作詞：丸山豊 作曲：團伊玖磨

1. みなかみ



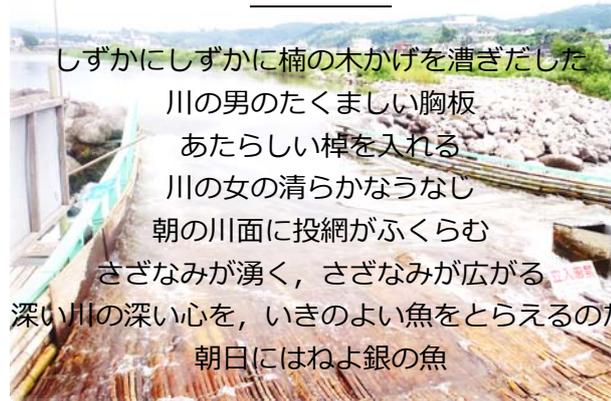
いま生まれたばかりの川  
山の光は小鳥のうぶ毛の匂い  
若草と若葉のかさなりは天へ続く緑の階段  
阿蘇外輪の春  
溶岩の寝床でいま生まれたばかりの川  
すがすがしい裸の愛が頬をあからめて歌いだす  
素足で元気よく走りだす  
さあ遠い旅行がはじまる  
けものの白い骨を狩人の墓を洗い  
森のくらすをおそれずに、滝の高さをおそれずに  
さあ未知の国々への旅行がはじまる

2. ダムにて



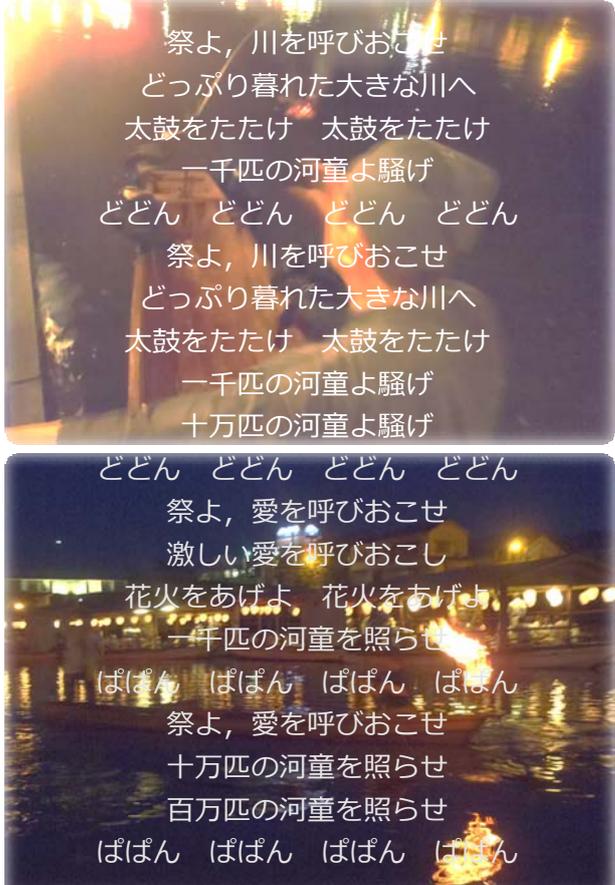
いそいと瀬を走り、青葉をくぐり若葉をくぐり  
もだえて右に左にうねり  
愛の水かさかふくらんだところで  
非常のダムにせきとめられる  
川よ、愛の川よ  
もっと深さをもつように  
もっと重さをもつように  
もっと冷静であるように  
不屈の決意をした青年です  
いのちがけで愛するために  
見よ！水面に映した紅の雲  
あなたを信じます、あなたの愛を  
ごらん！魚たちの鰓呼吸のおだやかさ  
川は、大きな川は、かがやく活路を探しだす  
自然に育てられた愛が  
筑後平野の百万の生活のなかへ  
歓喜の声をあげて走ってゆく

3. 銀の魚



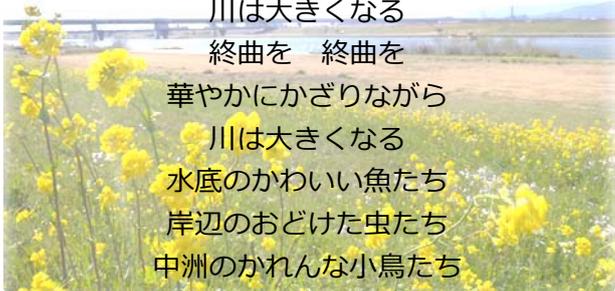
しずかにしずかに楠の木かげを漕ぎだした  
川の男のたくましい胸板  
あたらしい棹を入れる  
川の女の清らかなうなじ  
朝の川面に投網がふくらむ  
さざなみが湧く、さざなみが広がる  
深い川の深い心を、いきのよい魚をとらえるのだ  
朝日にはねよ銀の魚

4. 川の祭



祭よ、川を呼びおこせ  
どっぷり暮れた大きな川へ  
太鼓をたたけ 太鼓をたたけ  
一千匹の河童よ騒げ  
どどん どどん どどん どどん  
祭よ、川を呼びおこせ  
どっぷり暮れた大きな川へ  
太鼓をたたけ 太鼓をたたけ  
一千匹の河童よ騒げ  
十万匹の河童よ騒げ  
どどん どどん どどん どどん  
祭よ、愛を呼びおこせ  
激しい愛を呼びおこし  
花火をあげよ 花火をあげよ  
一千匹の河童を照らせ  
ぱぱん ぱぱん ぱぱん ぱぱん  
祭よ、愛を呼びおこせ  
十万匹の河童を照らせ  
百万匹の河童を照らせ  
ぱぱん ぱぱん ぱぱん ぱぱん

5. 河口



終曲（フィナーレ）を  
こんなにはっきり予想して  
川は大きくなる  
終曲を 終曲を  
華やかにかざりながら  
川は大きくなる  
水底のかわいい魚たち  
岸辺のおどけた虫たち  
中洲のかれんな小鳥たち  
さようなら さようなら  
川は歌う さようなら  
紅の櫓の葉、楠の木陰、白い工場の群よ  
さようなら さようなら  
川は歌う さようなら  
筑後平野の百万の生活の幸を  
祈りながら川は下る  
有明の海へ  
筑後川 筑後川  
その終曲あゝ